

松 並 木 (クロマツ)



今出川通に沿ってつらなる老松の並木は気付けば見事である。数えてみると女子部正門から東に18、西に啓明館前まで25、大学正門の西に3、計46、それに今出川通から相国寺に至る通り東側の5を加えると50本を越す。しかし、背丈は並びながら幹の細い樹々が見られるのは補植か、人工なのか、また松の生理差によるのか。

新島遺品庫前の今出川通側は駐車場になっていて「今出川通松並木／大正六年大沢善助氏植樹／昭和三十四年九月／同志社」の石碑は車たちのおしりに隠されてほとんど気付かれない。その年一月の同志社通常理事会は「今出川道路拡張二付同沿路ノ本社敷地ト目下本社ニテ借用中ノ官有地トヲ交換ノ件」を議して

いるが、それは市電が通ることになったためであり、当時の理事の一人大沢が松を寄附したのであった。

これより前、明治時代に女学校の門内西側に高さ三丈余（約11メートル）、四方にさし出た枝二丈五尺余の「可多美の松」があった。そこは生徒の憩の場として親しまれ、卒業生の懐しい思い出の松であったという。この松は元来二条公邸に植えられていたことから女学校創立20周年を期に二条基弘公爵に依頼して命名、傍らに彼が詠んだ「移し植えしときはいつともしらねと千代のかたと仰きてそ見る」の句碑を建てた。しかし、道路拡張のため再移植され、間もなく枯れて句碑も失われた。

宮澤 正典
(女子大学特任教授)